

- 1 教育事業名 「令和元年度教員免許状更新講習」
- 2 ねらい 自然を活用した体験プログラムを取り入れ、教員が自らの経験を豊かにするとともに、自然体験・集団宿泊活動の意義を理解し、その指導法、健康・安全管理等についての知識を深め、資質向上を図る。
- 3 期 日 令和元年8月7日（水）～9日（金）2泊3日
- 4 場 所 糸満青少年の家（※船舶欠航の為、会場を変更して実施）
- 5 募集定員 50名
- 6 参加人数 41名
- 7 参加者内訳 小学校教諭 22名  
中学校教諭 11名  
高等学校教諭 4名  
特別支援学校教諭 2名  
他 2名
- 8 講師
- ・井上 講四氏（教育協働研究所 岳陽舎代表）  
講義「生涯学習社会における学校教育・社会教育」
  - ・平野 貴也氏（名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科教授）  
講義「体験活動の意義と学習指導要領」  
実習「体験活動の指導法① ～マリン活動～」  
※会場変更の為マリン活動ではなく、ロープワーク、クラフト作成を実施。
  - ・東恩納 玲代氏（名桜大学人間健康学部スポーツ健康学科准教授）  
実習「体験活動の指導法② ～レクリエーションの基本と実技～」
  - ・北見 靖直氏（国立阿蘇青少年交流の家 次長）  
講義「体験活動の指導法③ ～体験活動の安全確保と安全指導～」  
講義・実習「体験活動の指導法⑤ ～体験活動とフィードバック～」
  - ・國仲 貴光（国立沖縄青少年交流の家 主任企画指導専門職）  
実習「体験活動の指導法④ ～野外炊事～」

9 実施プログラム

8月7日	9:00	10:00	11:30	12:00	13:00	15:00	17:00	19:00	21:00
(水)	とまりん集合	乗船	フェリーとかしき	開講式	昼食	講義「生涯学習社会における学教教育・社会教育」	講義「体験活動の意義と学習指導要領」	夕食 入浴	実習「体験活動の指導法① レクリエーションの基本と実技」

8月8日	7:00	8:30	9:00	12:00	13:00	15:00	19:00	19:30	21:00
(木)	朝のつどい 朝食	移動	実習「体験活動の指導法② ロープワーク・クラフト作成」	昼食	講義「体験活動の指導法③ 体験活動の安全確保と安全指導」	実習「体験活動の指導法④ 野外炊事」	移動	入浴 清掃	情報交換会

8月9日	7:00	8:30	9:00	12:00	13:00	13:30	14:30	16:00	17:10	
(金)	朝のつどい 朝食	清掃	講義・実習「体験活動の指導法⑤ 体験活動とフィードバック」	グループ発表会	昼食	まとめの時間	履修認定試験	閉講式	移動 フェリーとかしき	那覇市泊港解散

## 10 事業の様子



講義「生涯学習社会における学校教育・社会教育」



講義「体験活動の意義と学習指導要領」



実習「レクリエーションの基本と実技」



実習「マリン活動・ロープワーク」



実習「マリン活動・クラフト作成」



講義「体験活動の安全確保と安全指導」



実習「野外炊事」



講義「体験活動とフィードバック」



グループ発表

## 11 エピソード（参加者の声、アンケートより）

### 【参加者の声】

- ・体験活動について楽しければいいと思っていたが、指導者は危険を予知することや、もしものことを想定して体験させることを学んだ。
- ・実際に体験し、やってみることの大切さを学んだ。
- ・体験するだけが目的ではなく、そのプロセスが大切で、誰と学び、何をやるかなど体験活動の奥深さを知った。
- ・他県から参加される方々も多い中で、講義だけでなく寝食をともにできて良い刺激になった。
- ・沖縄の先生方と関わることができたことがとてもよかった。地域によって教育環境が異なり、情報交換会での話もとても興味深かった。
- ・雨天にも関わらず、とても内容が充実していたのでよかった。
- ・マリン活動の代わりにレクリエーションやロープワークが楽しく、現場でも生かしていきたい。

## 12 担当者所見

### (1) 成果

- ・台風接近で渡嘉敷島でのマリン活動が行えなかったが、講師陣による質の高い講義に支えられ、アンケートから見る参加者の満足度は99%であった。
- ・講義・実習を通して体験活動の素晴らしさや重要性を理解し、意欲的に学んでいる姿が見られた。
- ・野外炊事等の演習場面では、参加者が互いに協力し、助け合う姿が多くみられ、実体験を通して体験活動を行う意義や安全管理の重要性について理解を深めた。校種や勤務地の異なる参加者相互の情報交換の場を設定したことも高い満足度につながったと考える。

## (2) 課題

- ・今回、船舶の欠航により会場を糸満青少年の家に変更して行ったため、海洋研修でのマリ活動を実施することができなかった。そのため、糸満青少年の家で実施する際も近隣の海で海洋研修のプログラムを行うことができるのか、検討する必要がある。
- ・年度当初からの募集を行ったことで、県内外から募集定員50名の応募があったが、その後キャンセルが9名出ており、できるだけキャンセルがでないような条件等を募集要項に設けることも検討したい。